

NEWSLETTER

2016.8.29

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

76

第17回 咬合フォーラム

咬合治療の可能性と展望～健口長寿に向けて～

- 2016 年度海外研修報告 4
- 第 34 回学術大会・総会報告 5
- 第 34 回学術大会報告 表彰者一覧
- 第 35 回学術大会・総会のお知らせ
- 2015 年度支部学術大会報告 6
- 新・顎咬合学推進委員会 活動報告 6
- Informations 7

プログラム / 抄録 2, 3

学術委員長挨拶

倉富 寛

矯正治療はどの程度健口に貢献するのか？

加治 彰彦

咀嚼機能の回復を目指して ～診断と補綴製作の接点～

吉松 繁人

咬合・補綴治療の新しい価値

赤川 安正



特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 ニュースレター No.76

〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-8-2 山京半蔵門パレス 201 TEL : 03-6683-2069 FAX : 03-6691-0261

第17回

咬合フォーラム

咬合治療の可能性と展望～健口長寿に向けて～

2016.9.25 Sun

10:15～16:30（開場 9:50）

宮城県歯科医師会館（仙台市）

学術委員長挨拶



倉富 寛

咬合フォーラムも今回で17回目を迎えました。この咬合フォーラムは学術大会と並び、日本顎咬合学会の根幹をなす学術事業です。今回は杜の都・仙台に場所を移し、「咬合治療の可能性と展望～健口長寿に向けて～」というテーマで開催させていただくことになりました。

幅広い分野にわたる講演が魅力のひとつである学術大会は「新・顎咬合学が創る健口長寿」というテーマで本年6月に第34回大会が盛大に開催されました。今回の咬合フォーラムは、これとリンクする形で、いわば日本顎咬合学会の原点ともいえる「咬合治療」の可能性をより深く掘り下げて考えていただくテーマといたしました。本学会が推進している「新・顎咬合学」への取り組みは、昨今さまざまなメディアに取り上げられることも多く、それだけ歯科と全身の関わりについて国民の関心が高いと言えます。と同時に、我々

歯科医師に対する期待も高まっていることを実感せざるをえません。上演正理事長が牽引役となり、本学会および会員がこの分野のオピニオンリーダーとなりつつあります。この期待に応えることができるかどうか、今後の歯科界全体の発展のカギを握っていると言ってもいいのではないのでしょうか。今回、加治彰彦先生（東京都開業）には矯正専門医の観点から、吉松繁人先生（福岡県開業）には一般開業医の観点から、そして赤川安正先生（広島大学名誉教授）には大学を含めた歯科界全体を俯瞰する観点から、健口長寿に繋がる咬合治療の可能性をご講演していただきます。また咬合治療のスペシャリストとして名高い菅野博康先生（日本顎咬合学会元会長）に座長の労をお願いし、3名の先生方のご講演を紐解くナビゲーターとなっていただきます。最後に今回の開催にあたり、ご尽力いただきました木村純子東北支部長はじめ支部会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

Program

10:20～11:50

座長：菅野 博康



1965年 東京歯科大学卒業

福岡市 北歯科医院勤務

1968年 仙台市 すがの歯科医院開設

日本顎咬合学会 元会長

矯正治療はどの程度健口に貢献するのか？

加治 彰彦
東京都開業

矯正治療の恩恵とは何であろうか？ 歯列および顔面の審美的改善により、多くの患者にとって社会心理学的効用があり、QOLの向上がはかられていることは多くの研究からも明らかである。一方、矯正治療を行うことが、歯（列）のクオリティー向上や長期保存にどの程度繋がるかについては未解明な点が多い。例えば、“矯正治療を行うとカリエスや歯周病になりにくくなる”というフレーズは、昨今の歯科医療提供者が発信する広告媒体で目にする事が多く、歯科医療需要者である

国民もそのように信じていることが患者との対話のなかで見受けられることがしばしばある。しかしながら我々はこのフレーズを盲目的に信じていないだろうか？ 歯科医療提供者のなかには、患者に矯正治療を受けさせるように誘導するために、この様なフレーズを宣伝文句として誇張して利用しているのではないかと感じることもある。

我々歯科医療提供者は、患者に対して、現状で根拠のある治療理由や術式をもって歯科医療サービスを行う義務がある。今回の講演では、矯正治療が“健口”にどの程度貢献する可能性があるのかをEBMのフィルターを通して検証してみたい。また、“健口社会”を確立するための矯正を含めた歯科医療システムについて、北欧のシステムを参考にしながら考えてみたい。

Program

12:50~14:20

咀嚼機能の回復を目指して～診断と補綴製作の接点～



吉松 繁人
福岡県開業

高齢化社会の深刻化が進み、今総義歯治療に注目が高まっている。近年は患者の口腔内の機能改善や審美性に対する要望度が高く、従来の総義歯の完成度では満足をいただけないこともある。その背景もあってか、インプラントオーバーデンチャーやシステムティックに作製できる総義歯に話題が集まっている。しかしこれらの治療法を用いるからといってすべての患者の咀嚼機能の改善、満足度の

向上に必ずしも繋がっていないように思える。

その背景には患者固有の筋骨格系、組織学的、生理学的にあっていない補綴物が設計、製作されているからではないだろうか。

この患者固有の特徴を再現するため必要なものは高価な総義歯製作システムではなく、的確な診断方法や治療計画、そしてリハビリテーションの概念と機能的なデンチャーイメージを持つことが大事だと考えている。そこで今回は症例を通して生理学、解剖学的に調和する補綴について、私見をまじえて考察してみたい。

14:30~16:00

咬合・補綴治療の新しい価値



赤川 安正
広島大学名誉教授

超高齢社会の我が国における国民の関心は「健康長寿」にあります。歯科医師はこの「健康長寿」に貢献できるのか、咬合・補綴治療は「健康長寿」に役に立っているのか、などについてお話ししたいと思います。すなわち、咬合・補綴治療により損なわれた「噛む」「食べる」「しゃべる」「飲み込む」ことを回復することで、「健康な高齢者では健康寿命を伸ばすこと」「虚弱な高齢者ではQOLを改善すること」が可能であり、これこそが咬合・

補綴治療の新しい価値だと考えます。本講演ではこれらのエビデンスをわかりやすく説明し、さらに、アルツハイマー病と咬合の関係についても文献レビューをしながら私たちの最新の研究知見を紹介します。さらに、平成28年度診療報酬改定で先進医療から保険導入された「有床義歯咀嚼機能検査」についても、その経過を含めてお話しします。これらを通して、皆様の「咬合・補綴治療の新しい価値」への理解が深まり、歯の欠損に悩む患者にこの「新しい価値」を提供していただくことを強く願うものです。

16:00~16:30

ディスカッション

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

2016 年度 海外研修 報告



AAED 河原英雄先生講演報告

新・顎咬合学推進委員 鈴木 宏樹

それは深く記憶に刻まれる時間だった。

学会としての敷居が高く、限られた人数（約 100 名）しか会員になれない AAED（the American Academy of Esthetic Dentistry）の 41st annual meeting にて、河原英雄先生が推薦口演することとなった。河原先生の講演予定である学会 2 日目、僕は朝からとても緊張していた。さらに言うと、前日の夜も緊張のためあまり眠れなかった。なぜ勝手にそんな緊張していたかという、もちろん AAED での講演は世界的に著名な演者と同一壇上に上がるととても稀で素晴らしい機会ではあるが、日本に比べあまり高齢化が進んでいない米国において、高齢者歯科治療のプレゼンは、会場に集まった 500 名を超す参加者達にどう受け止められるか全く判らず、場合によっては、会場に誰もいなくなるなどの厳しいリアクションが返ってくる可能性もあるため、そこを勝手に憂慮していたのだ。そんな中、午前

11 時 20 分の予定時刻を 15 分程過ぎた頃、いよいよ河原英雄先生が壇上で紹介された。演題は“Back to the Basics: Proper Occlusion to Rehabilitate Chronically and Cognitively Impaired Patients”だ。会場はほぼ満席であった。遠目に見る河原先生の表情も硬く緊張しているように見えた。講演は他の演者達と同様に、最初にまずエビデンスを示しそれから症例提示というオーソドックスな流れであったが、エビデンスを説明している間にもパラパラと数人が立ち上がり会場から去った。やはり受け入れてもらえないのだろうかと不安がよぎる。1 症例目は斜頸の 80 代車椅子女性が総義歯調整による咬合治療とリハビリによって立つて歩くことができるようになった症例であったが、無反応に見える会場に不安が増していった。ところが 2 症例目の提示が終わり 3 症例目に移ろうとしたその時だった、講演の途中にもかかわらず、自然と会場から拍手がまき起こったのだ。気付けば会場もいつの間にか満席になっている。そして講演の終了時には盛大な拍手が約 30 秒にわたって会場内に鳴り響いた。思わず涙が出た。他のスピーカー達への講演終了時の拍手がせいぜい 10 秒程度だったことを鑑みると、これがどれだけの賞賛なのかは推して知ることができた。周りを見渡すと、やはり講演に感動し涙を拭いている人の姿が見受けられる。そしてチェアマンが『これは患者の人生を変える素晴らしい歯科治療だ』とコメントすると、会場からはもう 1 度大きな拍手が巻き起こり、河原先生の講演は大盛況の内に幕を閉じることとなった。



第34回 日本顎咬合学会学術大会・総会 報告

6月11日, 12日, 東京国際フォーラムにて, 第34回日本顎咬合学会学術大会・総会が開催されました。2日間で, 4,773名の参加者をお迎えして, 成功裡に閉会いたしました。今回はテーマを「新・顎咬合学が創る健口長寿」とし, Henry H Takei 先生, Perry R Klokkevold 先生, 垣添忠生先生, 河原英雄先生, 田中秀一氏の特別講演をはじめ, 多くの貴重な講演, そして, 臨床に即した, レベルの高い口演発表, ポスター発表が行われました。参加いただきましたすべての関係者に感謝申し上げます。



【職種別参加者数】

歯科医師 2,866 名 歯科技工士 409 名 歯科衛生士 939 名
 歯科助手 157 名 賛助会員 126 名 臨床研修医・学生／その他 276 名

第34回 学術大会 表彰者一覧

若手歯科医師の登竜門 支部選抜優秀発表者

野田 和秀(歯科医師) 矢澤一浩 賞

学会誌優秀論文賞

安東 史子 歯科医師部門

第33回学術大会優秀発表者(口演)

金澤 憲孝(歯科医師)	前沢 宙(歯科医師)
石井 彰夫(歯科医師)	中山 隆司(歯科医師)
西山 令生(歯科医師)	畑中秀隆(歯科医師)
永田 一樹(歯科医師)	神山 大地(歯科技工士)
北野 琢也(歯科医師)	斎尾 歩(歯科衛生士)
鈴木 玲爾(歯科医師)	

第33回学術大会優秀発表者(ポスター)

越智 信行(歯科医師)	長嶋 一直(歯科技工士)
島田 成章(歯科医師)	原野 晶代(歯科衛生士)
宇根岡 大典(歯科医師)	

メーカー賞

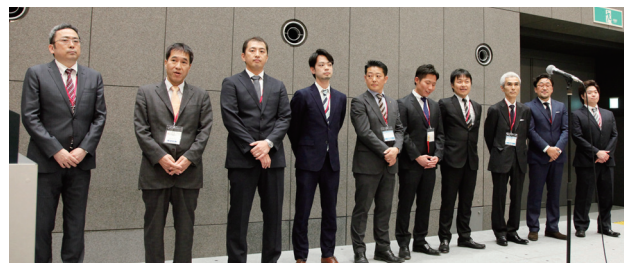
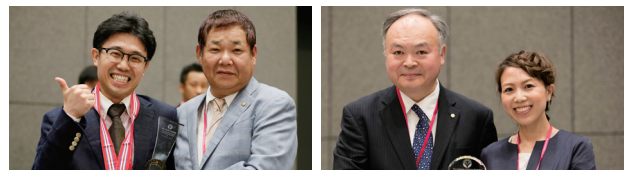
カボデンタル賞	相宮 秀俊(歯科医師)
モリタ賞	安東 史子(歯科医師)
ヨシダ賞	鈴木 佐栄子(歯科衛生士)

論文賞

山岸 敏男(歯科医師)	東田 淳一郎(歯科医師)
小野寺 夏美(歯科衛生士)	井上 義久(歯科医師)

特別賞(デジタル映像論文)

河原 昌二(歯科医師)



第35回 日本顎咬合学会学術大会・総会

テーマ **新・顎咬合学 —国民の健康・幸福に貢献する**

開催日 2017年 **6月10日(土)**・**11日(日)**

会場 東京国際フォーラム

2015 年度 支部学術大会 報告



北海道支部

北海道支部長 春藤 憲男

2015 年 11 月 1 日、北海道歯科医師会館にて北海道支部学術大会を開催いたしました。参加者は Dr. 105 名、DH 40 名、DT 36 名、合計 181 名と昨年の 129 名よりも多く、活気ある支部学術大会になりました。

東北支部

東北支部長 木村 純子

第 21 回東北支部学術大会が、宮城県仙台市より福島県郡山市に場所を移して開催されました。仙台の先生方にご協力をいただき、また参加者も 120 名を超え、無事盛況のうちに大会を終えることができました。



中部支部

中部支部長 三輪 一雄

名古屋駅近くにありますウインクあいちにて中部支部学術大会を開催いたしました。参加者は約 100 名と例年並みでしたが、今回は企業展示も多く出していただき活気ある支部学術大会となりました。



近畿・中国・四国支部

近畿・中国・四国支部長 鵜飼 誠

AP ホールにて近畿中国四国支部学術大会を開催いたしました。参加者は Dr. 109 名、DH 33 名、DT 8 名の合計 150 名と例年より多く、企業展示も多く出展していただき大盛況の支部学術大会になりました。



九州・沖縄支部

九州・沖縄支部長 田中 憲一

福岡電気ビルにて九州沖縄支部学術講演会を開催いたしました。各演者とも発表内容が洗練されており、会場（参加者 199 名）からの質疑に対するディスカッションも交え有意義な時間となりました。



新・顎咬合学推進委員会 活動報告

6 月 4 日、5 日にタワーホール船堀（東京都）で開催された「第 15 回パワーリハビリテーション研究会・第 10 回日本自立支援介護学会合同学術大会」にて、竹内孝仁先生（国際医療大学大学院教授）座長のもと、河原英雄先生が特別講演「口腔摂取は歯科の仕事、その多様な可能性」を行った。河原先生は患者の観点から義歯治療の評価をすべきであること、また患者の背景にある「生活」に目を向けることを強調し、医療・介護従事者を中心とした参加者から共感を得た。



● 認定医制度規則・認定医制度施行細則の変更についてのお知らせ

認定医制度規則、認定医制度施行細則の一部変更について、2016年6月10日の理事会で承認されました。新しい認定医制度規則、認定医制度施行細則については学会ホームページをご覧ください。（学会ホームページ <http://www.ago.ac/>）

なお、咬み合わせ認定医、咬み合わせ指導医の更新については下記変更がありましたのでお知らせいたします。

【咬み合わせ認定医の更新について】

認定期間5年間で60単位以上を取得すること。ただし、5年間に学会の年次大会（6月の学術大会）に1回以上、且つ支部学術大会に1回以上出席していること。

【咬み合わせ指導医の更新について】

認定期間5年間で100単位以上を取得すること。ただし、5年間に学会の年次大会（6月の学術大会）に1回以上、且つ支部学術大会に1回以上出席していること。また、指導医研修会に1回以上出席していること。

※上記の更新の変更については、咬み合わせ認定医、咬み合わせ指導医とも本年2016年7月1日より認定期間の開始した場合からの適用とする。

● 2016年度 認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士検定試験結果報告

今年度の認定医検定試験、認定歯科技工士検定試験は4月24日（日）にJA共済ビルカンファレンスホール（東京）で実施されました。また、認定歯科衛生士検定試験は2015年10月～11月に6支部の各会場にて実施されました。

その後、4月24日（日）の認定審議会・認定審議運営委員会・歯科技工士部会・歯科衛生士部会の合同委員会において厳正な採点が行われ、その結果は6月10日（金）開催の理事会で審議され、新たに認定医64名、認定歯科技工士20名、認定歯科衛生士64名が承認されました。

認定された皆様方の検討を讃えとともに、今後のご活躍を期待しております。

（認定審議会委員長 平井 順）

【認定医検定試験】

受験者 79 名・合格者 64 名

【認定歯科技工士検定試験】

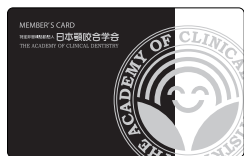
受験者 24 名・合格者 20 名（100 点満点 6 名）

【認定歯科衛生士検定試験】

受験者 64 名・合格者 64 名

◆ 2016 年度 各支部の事業予定 (自 2016 年 4 月 1 日～至 2017 年 3 月 31 日)

支部名	区 分	開催日	会 場	内 容、講師等
北海道	認定医 教育研修会	2016 年 10 月 15 日 (土)	アスティ 45 16 階 中研修室 (北海道札幌市)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 黒岩 昭弘 先生 (松本歯科大学歯理工学講座・歯科補綴学講座教授) 関野 倫 先生 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座准教授)
	支部学術大会	2016 年 10 月 16 日 (日)	アスティ 45 16 階 大研修室 (北海道札幌市)	テーマ：「患者さんの一生を考えた歯周治療」 特別講演 谷口 威夫 先生 (長野県開業)・山岸 貴美恵 先生 「[6mm 以上の歯周ポケットを歯周基本治療でさっぱり治す] —患者さんの一生を考えた歯周治療—」 会員発表 6 題
東北	認定医 教育研修会	2016 年 11 月 5 日 (土)	山形県 歯科医師会館 (山形県山形市)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 稲葉 繁 先生 (東京都開業) 関野 倫 先生 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座准教授)
	支部学術大会	2016 年 11 月 6 日 (日)	山形県 歯科医師会館 (山形県山形市)	テーマ：「山形の山形による東北のための学術講演会～ゆりかごから墓場まで～」 予防・TBI・歯周病・CAD/CAM・訪問歯科診療・インプラント・総義歯臨床のトピックス 特別講演 高木 幸人 先生・佐々木 英夫 先生・佐藤 勝史 先生・吾妻 聡 先生・ 湯田 亜希子 先生・小林 貞則 先生・赤塚 裕美 先生 会員発表 9 題
関東 甲信越	認定医 教育研修会	2016 年 11 月 19 日 (土)	コンgresクエア日本橋 (東京都中央区)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 稲葉 繁 先生 (東京都開業) 伊藤 公一 先生 (日本大学歯学部歯周病学講座特任教授)
	支部学術大会	2016 年 11 月 20 日 (日)	コンgresクエア日本橋 (東京都中央区)	テーマ：「ワンランク上の歯科臨床を目指して！！磨きたい技・伝えたい心」 特別講演 (咬合セッション) 行田 克則 先生・上田 秀朗 先生・中川 雅裕 先生 (補綴とメンテナンス) 内田 剛也 先生・高橋 温子 さん・小川 洋一 先生・岩井 理子 さん (DH セッション) 中村 佐和子 先生・浦野 佳織 先生・青木 薫 先生 テーブルクリニック/ハンズオン 高橋 慶壮 先生・小倉 充 先生・小林 明子 先生・松田 哲 先生 ランチョンセミナー 岩田 健男 先生・安生 朝子 先生 会員発表 11 題
中部	認定医 教育研修会	2016 年 12 月 3 日 (土)	ジーシー名古屋営業所 (愛知県名古屋市)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 稲葉 繁 先生 (東京都開業) 伊藤 公一 先生 (日本大学歯学部歯周病学講座特任教授)
	支部学術大会	2016 年 12 月 4 日 (日)	ウインクあいち (愛知県名古屋市)	基調講演 「21 世紀のペリオドントロジー」 天野 敦雄 先生 (大阪大学予防歯科学教室教授) 歯科衛生士対象ハンズオン 小牧 令二 先生 (岐阜県瑞穂市開業) 会員発表 5 題
近畿 中国 四国	認定医 教育研修会	2016 年 11 月 26 日 (土)	AP 大阪駅前梅田 1 丁目 AP ホール (大阪府大阪市)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 黒岩 昭弘 先生 (松本歯科大学歯理工学講座・歯科補綴学講座教授) 伊藤 公一 先生 (日本大学歯学部歯周病学講座特任教授)
	支部学術大会	2016 年 11 月 27 日 (日)	AP 大阪駅前梅田 1 丁目 AP ホール (大阪府大阪市)	テーマ：「長期予後のための総合診療」 特別講演 「長期に亘る補綴治療から学べたこと」 行田 克則 先生 (東京都開業) 会員発表 4 題
九州 沖縄	認定医 教育研修会	2016 年 12 月 10 日 (土)	福岡県 歯科医師会館 5F 大ホール (福岡県福岡市)	テーマ：「咬むことから健康に貢献する健口長寿—咬合と歯周から考える—」 黒岩 昭弘 先生 (松本歯科大学歯理工学講座・歯科補綴学講座教授) 関野 倫 先生 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座准教授)
	沖縄県主催 認定医研修会	2017 年 2 月 26 日 (日)	沖縄県 歯科医師会 大研修室 (沖縄県那覇市)	特別講演 松本 勝利 先生 (福島県南会津郡開業)
	支部学術大会	2016 年 12 月 11 日 (日)	福岡県 歯科医師会館 5F 大ホール (福岡県福岡市)	特別講演 「CAD/CAM を用いた咬合再構成における正確な補綴操作の一提案」 樋口 琢善 先生 (福岡県飯塚市開業) 会員発表 8 題



◆ 会員カード発行のお知らせ

平成 24 年度より会員カードを発行しております。学術大会・咬合フォーラム・研修会などの受付手続きや単位申請 (申請方法は会によって異なります) に必要となりますので開催時には必ずご持参頂きますようお願いいたします。

◆ 学会ホームページの「会員専用ページ」をご利用ください

- ・勤務先・自宅・お届け先など登録内容の確認・変更
- ・認定資格・単位取得状況の確認
- ・年会費のお支払 (カード決済)、お支払状況の確認
- ※コンビニ・郵便振替をご希望の方は事務局までご連絡ください

- ・2016 年度の年会費の納入がまだお済みでない方は、至急お振込みをお願いいたします。
- ・過去に未納分がございますと、認定試験、認定医の更新、学術大会への参加ができませんのでご注意ください。
- ・学会からの発送物は郵便及びメール便を利用しています。メール便の場合は転送されませんのでお届けできない場合がございます。勤務先の変更、転居等登録内容に変更が生じた場合は、至急変更のお手続きをお願いいたします。
- ・「会員専用ページ」のご利用には、会員 ID (会員 No) とパスワードが必要です。ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。